

醫學博士 牧野富太郎 創始 主幹 藥學博士 朝比奈泰彦

植 物 研 究 雜 誌

THE JOURNAL OF JAPANESE BOTANY

第 26 卷 第 5 號 (通卷第 280 號) 昭和 26 年 5 月發行

Vol. 26 No. 5 May 1951

野 口 彰: *Weisiopsis* 屬 の 蘚 類**

Akira NOGUCHI*: Notes on a genus of mosses,
Weisiopsis Broth.

Weisiopsis は 1919~20年に, Brotherus 1) によつて新しく設けられた屬である。この屬に入れられた種は, それまで *Hyophila* 屬に入れられていた 4 種, 即 *Hyophila pliocata* Mitt. (= *H. subplicata* Ren. et Card.) (Usagara, Madagacar 産), *H. weisiaeformis* Card. (朝鮮, 四國), *H. anomala* Broth. et Par. (朝鮮, 對馬), *H. coreensis* Card. (朝鮮) と, 新に伊勢産の 1 新種 *Weisiopsis japonica* Broth. を加えて合計 5 種であつた。

Hyophila 屬の大部分の種は蒴齒を缺いているのであるが, ごく少數の種は蒴齒を有して、分類上の位置は古くから問題にされていた。Mitten の如きも, 或る時は *Weisia* 屬に入れ, 又或る時は, 配偶體は *Hyophila* に似るが, 蒴齒に關しては *Weisia* と考えるというように, 位置のはつきりしないものであつた。Renauld 及び Cardot も, すでに蒴齒を有する *Hyophila* 屬の種を特別なものとして, 一つの group とみなされることを記している²⁾。Brotherus は *Weisiopsis* 屬は, *Weisia* 屬と *Hyophila* 屬との中間に位するものとの考えである。

從來蒴齒の有無が論議されたが, *Weisiopsis* 屬が他の屬から區別される著しい特徴は, 寧ろ次の諸點にあるように思われる。即ち蒴胞壁が薄く, 細胞膜もあまり肥厚せず, 蒴胞が空になった時には壁は淡黄色にみえ, 又角ばつて多くの稜がみえる。蒴齒は線狀披針形で細長く尖り, 基部は蒴口内の深いところから生え, 各齒は相互にはなれている。其の他で, *Weisia* 屬に似た點もみられるが, 蒴胞は同屬のものよりも小さく, 蒴柄もも

* 大分大學學藝部生物學教室 Biological Institute, Faculty of Liberal Arts, University of Oita, Kyushu.

** 本研究は文部省科學研究費によつてなされたものの一部である。

1) Finsk. Vet. Soc. Förhandl. 62:7 (1919~20).

2) Prodrome de la Flore Bryologique de Madagascar des Mascareignes et des Comores 123 (1897).

つと細い。葉の基部の格子状細胞群は *Weisia* 屬などと同じように、疎で縁邊では急に小さい細胞となつている。葉形はすでに論議されているように、*Hyophila* 屬のものに近い形のものである。

1) *Weisiopsis plicata* (Mitt.) Broth. in Finsk. Vet. Soc. Förhandl. 62:8 (1919~20).

Renauld 及び Cardot³⁾ は *Hyophila subplicata* Ren. et Card. の蒴齒について、*H. plicata* の記載と違うとして、次のように記している：

.....tandis que dans notre plante, ces dents sont linéaires, granuleuses et distinctement trabéculées, non élarges larges à la base. ここで問題になるのは、蒴齒に横線の有無ということであるが、これがどの程度のものかは記載では明かではなく、邦産の *W. Cardoti* Broth. などでは、遠くて著しくはないが横線があり、この點は Mitten の見落しかも知れない。次に蒴齒が基部で廣くなつているのも、どの程度のものか、*W. plicata* の type をみていない筆者にはわからない。*W. Cardoti* では基部が著しく廣くなつている場合と、そうでない場合とがあるので、*H. plicata* と *H. subplicata* とを同じものとする Brotherus の意見は適當と思われる。Brotherus の key に従うと、*W. plicata* が東洋産の他の種と異なるとして記されている點は、蒴齒は著しく襲がよることのようであるが、それもどの程度のものかは、はつきりしない。この蒴齒の性質といい、又葉形も記載から判断すると、*W. Cardoti* とあまり變つたものではないようである。

2) こごけもどき、やまところげもどき、ほそごけもどき。

Weisiopsis Cardoti Broth. l. c. 8. (Fig. 1, 2).

Hyophila Weisiaeformis Card. in Bull. Herb. Boiss. 8:717 (1907).

Hyophila anomala Broth. et Par. in sched. ex Card. l. c. 717-syn. nov.

Weisiopsis anomala (Broth. et Par.) Broth. l. c. 9-syn. nov.

W. japonica Broth. l. c. 8-syn. nov.

Autoica. Planta viridis, dense caespitosa. Caulis simplex vel dichotome divisus, dense foliosus. Folia sicca valde incurva, madida erecto-patentia, linearia apice late acuta vel obtusa apiculata vel nulla, inferiora minora ad 1×0.25 mm, superiora raptim majora 2.5×0.5 mm, marginibus planis integris superne magne celluloso-crenatis, costa valida basi $25 \sim 40 \mu$ lata, sudcontinua, lutescenti inferne lutescenti-fusca, cellulis obscuris, medianis subquadratis mamillatis, parietibus, tenuibus $7 \sim 10 \mu$ in diam, superioribus minoribus basilaribus, raptim laxis, hyalinis, rectangularibus, parietibus valde tenuibus mollibus, $28 \sim 40 \times 15 \sim 20 \mu$ marginalibus raptim multo minoribus, rectangularibus. Bracteae perichaetii haud diversae. Seta terminalis, lutescens, erecta,

3) l. c. 122.

valde tenuis 3~8mm longa 0.05~0.04mm crassa. Theca erecta, oblonga, multe angulata, $1.2 \times 0.45 \sim 0.8 \times 0.35 \sim 0.65 \times 0.3$ mm, leptoderma, lutescens ore rufescens. Peristomium remotum, sub ore insertum, exostomii dentes lineari-lanceolati, superne anguste attenuati, ca 0.17mm longi, dense papilloso,

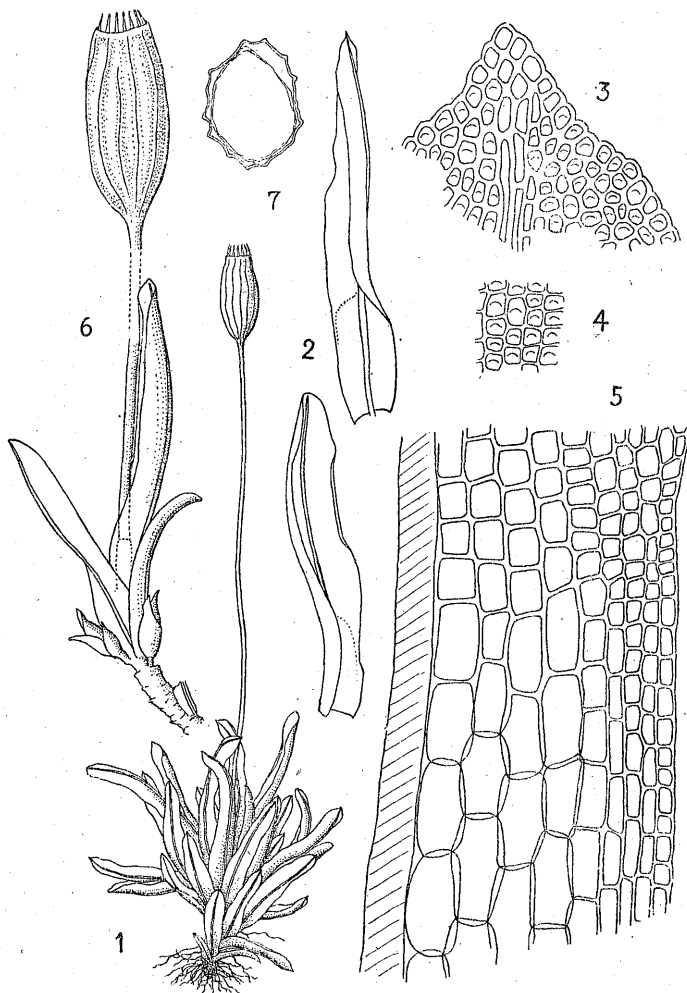


Fig. 1. *Weisiopsis Cardoti* (from Mt. Futatabisan, Prov. Settu, Faurie-no.2250)

1. Plant, $\times 13$. 2. Leaves, $\times 28$. 3. Leaf-apex, $\times 294$. 4. Cells from middle of leaf, $\times 294$. 5. Basal angle of leaf, $\times 294$. 6. Sporophyte with two perigonia, $\times 28$.

rufescentes. Sporae globosae, minute papillosae, $9\sim 12\mu$ in diam. Operculum longe oblique rostratum, $0.4\sim 0.5\text{mm}$ altum. Calyptra cucullata, lutescens, laevis, $1\sim 1.2\text{mm}$ longa. Folia perionialia pauca, interna late ovata acuta, costa subcontinua.

〔研究標本〕 Musci Japonici Exsiccati. Ser. 3, No. 111 (1949), Hon-siu : 攝津再度山^{フタダビ} Faurie-no. 2250, 1903 年 4 月), 播磨赤穂郡三濃村 (建部惠潤, 1949 年 4 月), 備中都窪郡管生村 (井木長治, 1949 年 10 月), 伊勢鈴鹿郡川崎村 (笹岡久彦, 1913 年 5 月), 紀伊田邊, Kiusiu: 日向飫肥町板敷 (服部新佐, 1948 年 9 月), 對馬 (Faurie-nos. 1630, 1633, 1901 年 5 月). Korea: Hoang-hai-to (Faurie-nos. 642, 661, 1906 年 8 月).

Hyophila weisi-aeformis Card. はもと再度山や濟州島の材料で設定され, *Weisiopsis* 屬に移される時に *W. Cardoti* と改名され, 新産地として朝鮮の

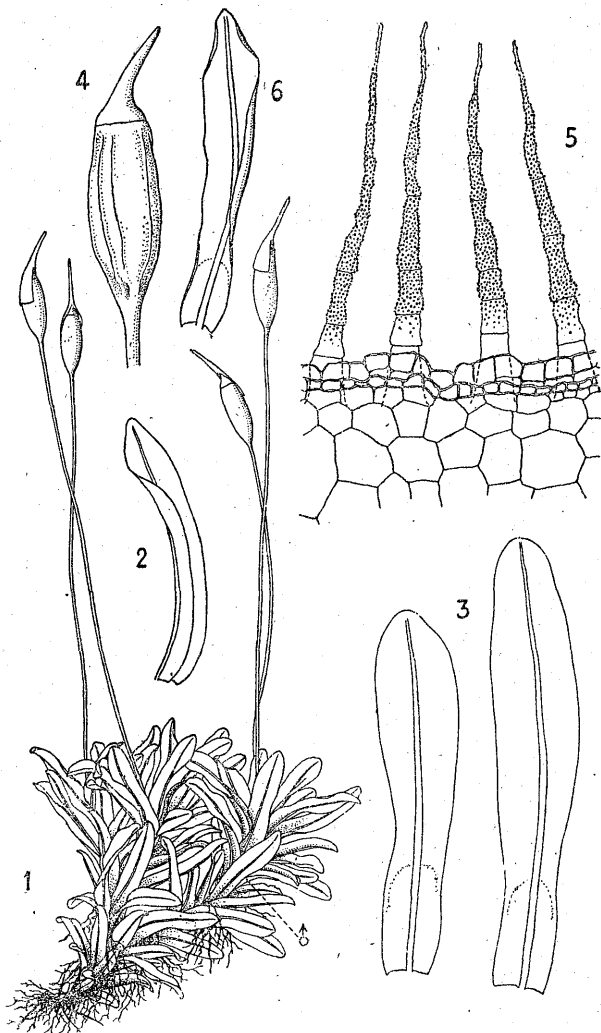


Fig. 2. *Weisiopsis Cardoti* (from Obi-mati, prov. Hiuga).....1~5. *W. japonica*=*W. Cardoti* (from Kawasaki-mura, Prov. Ise).....6.

1, Plant, $\times 9$. 2-3, Leaves, $\times 28$. 4, Capsule with lid, $\times 28$. 5, Peristome, $\times 294$. 6, Leaf, $\times 28$.

2 箇所と、土佐アキノガワ及び尾川村が加えられた。(Cardot が *H. weisiaeformis* を発表するに當つて記した原記載は極めて簡単なもので、筆者は主に原標本に基づいて、上のように追記載を試みた。服部新佐氏が飢肥町で採集した標本は、少々若い完全な子嚢體を具えている。この標本に比較すると體が大きく葉は扁平になつていて、圖に示した原標本のものとは一見異なるように見える。これは原標本が採集後、可成りの年月を経ているので、水に浸しても、葉が十分に展開しないためと思われる。葉頂の形は原記載にあるように、變異に富み、飢肥町産では圓鈍のものが多い。莖柄の長さは原標本でも、飢肥町産でも共に變異が多く、3~8mm である。莖胞は原標本では多角柱状に角張つて、稜線にあたる場所は、他の部分が淡黄色であるのと違つて黄褐色であるが、特に細胞が多層になつている譯ではない。飢肥町産の莖柄は若いために、充分角張つていない。莖齒は原標本では鈍頭であつて、長さは 0.1mm しかないが、之は莖齒を缺く標本であり、完全な子嚢體を有する飢肥町産では、先が細長く尖り 0.17mm 位あるので、この方が正しい莖齒の長さであろう。

Weisiopsis japonica Broth. は、伊勢川崎村産の唯一の標本で設けられた種であつて *W. Cardoti* に比較して、主に莖柄が短く、葉細胞に微小乳頭がある點で區別されている。原標本を調べてみると、莖柄の長さは 2.5~2.5mm あり、なる程 *W. Cardoti* の莖柄に比較して短い。しかし前述のように、*W. Cardoti* の莖柄の長さは種種變異があるので、これをもつて、種を別つよりどころとするのには無理がある。葉細胞の微小乳頭は、古くなつた標本では、消失していることもあるが、それにしては、*W. japonica* と *W. Cardoti* とは相互に、葉形、細胞、中肋、葉縁の性狀など餘りによく似ている。微小乳頭の點は、Brotherus の誤認ではないかと思われるので、*W. japonica* は *W. Cardoti* の異名に下した。

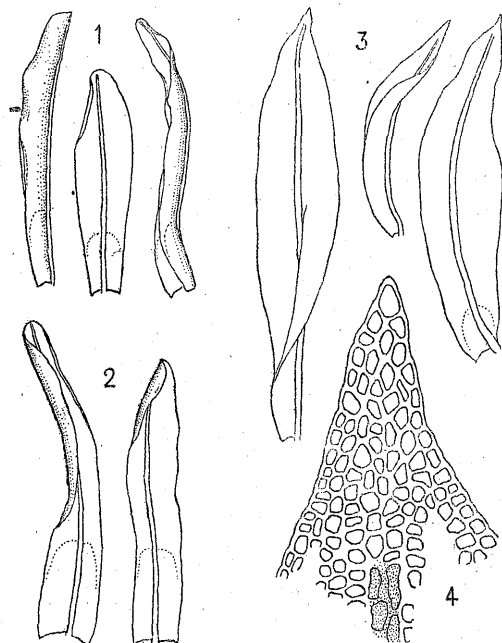


Fig. 3. *Weisiopsis anomala* (from Hoang-hai-to, Korea, Faurie-no. 642) = *W. Cardoti*.....1.

W. anomala (from Isl. Tusima, Faurie-no. 1633) = *W. Cardoti*.....2.

W. coreensis (from An-pyen, Korea, Faurie-no. 611).....3, 4.

1, 2, 3, Leaves, $\times 28$. 4. Leaf-apex, $\times 294$.

W. anomala の原標本である Hoang-hai-to (Faurie-nos. 642, 661) 及び對馬 (Faurie-no. 1630) 産を調べてみると、植物體は Cardot 並に Brotherus の記すように、なるほど *W. Cardoti* にくらべて小さい。又兩氏は *W. anomala* は葉は狭く線状と記して、實際の標本についてみても、葉縁が巻き込んでいとはいえ、その傾向がいくらか認められる。然し圖 (Fig. 3-1,2) に示したように、*W. Cardoti* と區別される程のものではないようである。又その他、兩氏が區別點として記したことも、その意義が乏しいように思われる。京大の標本室には尙 *W. anomala* と銘うつた對馬産の標本 (Faurie-no.1633, 1901 年 5 月) がある。之は莖がやゝ長い、前記のものと同種である。本種の莖柄について、Brotherus は長さ約 7 mm と記すが、原標本でしらべると、no. 642...約 4mm, no. 661... 3~5mm, no. 1630...3.5~6mm, no. 1633...4~6mm 程度のもので、矢張り *W. Cardoti* のものと變つたものでない。よつて筆者は、*W. anomala* は *W. Cardoti* の異名になるべきものと思う。

3) こまのこごけもどき. *Weisiopsis coreensis* (Card.) Broth. l. c. 9 (Fig.3).

本種の葉形は可り異つて、*Hyophila* 屬のものに似た外形を有して、葉細胞も *W. Cardoti* にみるように、泡状に膨出せずに平坦である。元來この種は不實の標本で設けられたもので果して *Weisiopsis* 屬にみられるような特異な子囊體を具えているかどうかは疑問であつて、寧ろ以前通りに *Hyophila* 屬に入れておくのが適當かも知れない。

オイボクサの種名 Keisak は Siebold の門人二宮敬作であらう (前川文夫)

Fumio MAEKAWA: Specific epithet Keisak probably derived from the name of Mr. Keisaku Ninomiya, a pupil of Siebold.

イボクサ *Aneilema Keisak* Hassk. Commeinac. Ind. 32 (1870) の種名の語源については牧野先生が圖鑑の正誤表で敬(?)作という人に由來するかとされて以來加える處がなかつた。Keisak によく似た學名にコウヤミズキの異名 *Corylopsis Kesakii* S. et Z. があり、ヒュウガミズキの條下 Fl. Jap : 49 (1824) に記載も伴わずに九州の山地で Mr. Kesak が *Coylopsis* の第三種として發見したとしてある。日獨文化協會編シーボルト研究 : 37, 41, 55 (昭 13) によるとシーボルトの初期の門人に二宮敬作がある。文政 6 年 (1823) に S 氏來朝の年に早くも弟子になつた人で當時 S 氏 27 歳敬作 20 歳の青年であつた。ついでだが同書にこの事を記してヒュウガミズキのことを *Corpolapsis pantibora* アハモチとしたのは誤植も甚だしい。S 氏の植物採集は當時のポイテンゾルフ植物園長 Blume を通じて和蘭政府の依頼であつたから、和蘭へ同氏からわたした資料が多い。その中に門人の採品がまじつていたことはありうる。Miquel が Prolusio : 306 (1866-67) にひいた Hasskarl の手記名のもとには Siebold が Iwayagama (岩屋山の誤記であらう) であつたもので Keissak jap とあり人名とはわからぬまゝに日本名をケイサクと思つた節は十分にある。前後の事情から長崎北方の岩屋山麓で二宮敬作があつたものであると見たい。